

9月1日は
防災の日

地震の心得10か条

よく知られた「地震、雷、火事、親父」を、千件前後発生しています。九月一日は「防災今日流に」「地震、台風、火事、津波」などという人もいますが、それはともかく地震の恐ろしさは昔も今も変わりません。日本は世界の地震の一〇%を引き受けているといわれるほど地震の多い国です。体感することのできる「有感地震」は、一年間に お宅の地震対策は大丈夫ですか。

まずわが身の安全を図れ



すばやく火の始末



火が出たらまず消火

万一出火した場合には、初期のうちに火を消すことが大切。大声で隣近所に声をかけあい、皆で協力して消火につ



あわてて戸外に飛び出すな

どんな大きな地震でも、大揺れは一分程度といわれている。あわてて外に飛び出すと落下物などにより負傷するなど危険が多いので、周囲の状況をよく確かめて落ちついて行動する。

狭い路地、へいぎわ、がけや川べりに近寄らない

狭い路地、へいぎわ、がけの上やがけの下、ブロックベいのそばなど危険な場所にいるときは急いで離れる。

避難は徒歩で、持ち物は最小限に

津波や大火災で避難をするときは、消火、救急救護活動などの障害となるので、自動車は絶対に使わず、必ず徒歩

で避難する。
持ち物は最小限にとどめ、背おうなどして身軽に行動できるよう両手をあける。

正しい情報をつかみ 余震を恐れるな

市役所、消防署、警察署などの指示に従って行動する。一般的には余震は本震より小さいといわれているが、余震には十分注意し、沈着な行動をとる。

山崩れ、がけ崩れ 津波、浸水に注意

山ざわや急傾斜地は、山崩れやがけ崩れがおこりやすい。海岸地帯では津波、低地では浸水のおそれがあるので、すばやく安全な場所に避難する。

協力しあって応急救護



秩序を守り、衛生に注意

身勝手な行動をとらず、秩序を守ろう。伝染病などの発生のおそれがあるので衛生には十分注意する。

